

2023年5月16日

関係各位

会社名 ケアパートナー株式会社

## 環境省ローカルSDGs地域循環共生圏 企業等登録制度登録のお知らせ

ケアパートナー株式会社（本社：東京都品川区 代表取締役社長：白井孝和）は、4月28日、環境省が推し進めるローカルSDGs地域循環共生圏<sup>※1</sup>企業等登録制度に審査の結果、登録・開示されましたのでご案内致します。

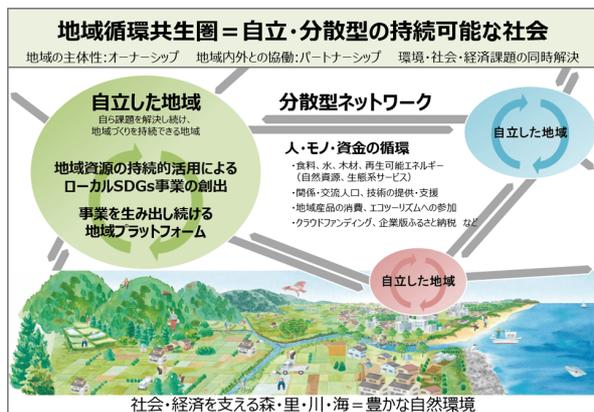
今後も「脱炭素につながる新しい豊かな暮らし」として、社内の取り組みと共に、地域や世の中全体の運動としてSDGsの17GOALSに向けた当社の取組事例を、ご利用頂いているお客様やお子さま、ご家族や保護者様、各行政・自治体様や地域の方々へ発信し、地域全体の取り組みとして共有、促進を図って参りたいと考えております。

※1) 地域循環共生圏とは、地域資源を活用し、環境・経済・社会を良くしていくビジネスや事業といった形で社会の仕組みに組み込むとともに、地域の個性を活かして地域同士で支え合うネットワークを形成していくという、「自立・分散型社会」を示す考え方

※（関連URL）環境省HP：<http://chiikijunkan.env.go.jp/kigyou/list/#n196>

### 1. 環境省ローカルSDGs地域循環共生圏について

日本が目指す持続可能な社会の姿で、2018年、国の第5次環境基本計画で掲げられ、それぞれの地域が主体的に「自ら課題を解決し続け」、得意な分野でお互いに支えあうネットワークを形成していくことで、地域も国全体も持続可能にしていく「自立・分散型社会」のこトです。地域で環境・社会・経済の課題を同時解決する事業を生み出していくことから「ローカルSDGs」とも呼ばれています。



< 地域循環共生圏 = 自立・分散型の持続可能な社会 >



< 脱炭素につながる新しい豊かな暮らし運動 >

### 2. 環境省ローカルSDGsを通じて、弊社で実現したい社会像

介護、看護、保育、障がい等の福祉事業を行なう弊社にとって、福祉全般の概念として目指している「地域包括ケアシステム」や「地域共生社会の実現」に向けた地域での取り組みの促進は、福祉事業者として非常に重要です。

環境省ローカルSDGsや「脱炭素につながる新しい豊かな暮らし」運動等を通じての当社内での取組事例を、ご利用のお客様やお子さま、ご家族・保護者様、各自治体や地域の方々へ継続して発信することで「インセンティブや効果的な情報発信（気づき、ナッジ）を通じた行動変容の後押し」となる地域全体の取り組みとして共有ができ、促進が図れていくものと考えています。

地域全体で少しずつでも共感頂きおこなうことで、「3. すべての人に健康と福祉を」を始めとするSDGsの17GOALSに向けた大きな取り組みが図れ、持続可能な共生社会が創り出されて行くものと思慮しております。

### 3. 弊社代表取締役社長 白井孝和より

ケアパートナーは、「ケアパートナーで元気に」をスローガンに、介護・看護・保育・障がい者事業を展開し、スタッフやお客様・ご利用者様、子ども達、ご家族様、地域社会に支えられ成長してきました。

弊社では、福祉事業者として地域の皆さまと共に、安心な地域社会実現のため様々な取り組みを各事業所でおこなっており、この度、その一例が「環境省ローカルSDGs地域循環共生圏企業等登録制度」に登録されることになりました。今回の取り組みは、弊社施設や保育園がSDGsを身近に感じられる内容を、それぞれのスタッフが試行錯誤して考えた独自のものとなります。弊社スタッフのサステナブルに対する高い志と共に、今後も、地域の皆さまから信頼いただける、開かれた施設・事業所・保育園の運営を目指して参ります。

### 4. 弊社の取組事例

認可保育園で、SDGsカードを作成し遊びながら子ども達に気づきと知る事から始めました。子ども達はSDGs自体を知らないため、苦労しながらも工夫を重ね、興味の持ちやすい所から取り掛かれるよう遊びに取り入れました。興味を持ったカードを保育士が子ども達に分かりやすく説明したり、保護者様へも写真で開示し家族の中でも会話にしてもらえよう工夫しました。

世界の中には食べるものにも困る子どもがいることも知り、給食を残さずに食べようという意識を持ち始める子どもも現れてきていると感じます。



通所介護（デイサービス）で、スタッフ各々が作成した紙芝居形式の資料を使い当社の取組事例と共にSDGsを分かりやすくお客様へご説明しました。会報誌にも詳細を記しご家族様や地域のケアマネージャー様へご案内を行ないました。

認可保育園で、図書館でシイタケから出汁が取れることを知り、園で育てたシイタケを使って出汁を作り飲み比べを行いました。この体験を『だし新聞』として保護者様へお知らせし、また同時に本を貸し出して頂いた図書館へお伝えしたところ「だし新聞」を館内に掲示頂きました。



通所介護（デイサービス）で、センターで出る食材の切端や残飯でコンポストを実施し、堆肥を育てお花や緑のカーテンを作るときの土作りに活躍しています。大きなコンテナに古い土と堆肥を混ぜ、出来たふかふかの土で新たに野菜や花の栽培に使用しました。

取り組んだ事例は、会報誌にてご家族様や地域のケアマネージャー様のほか、社内研修にて全国へ共有を行いました。また、育てたヘチマでたわしを作り、出来た種を袋に入れ取り組みのご案内と共にお客様やご家族様へ配布しています。

○本件に関するお問い合わせ先・・・ 03-6404-8111（施設管理本部 施設管理課）

以上